

へいそく そくおけえ

■曾於市文化財散歩 (十)

「六地藏塔」

笠のない“かわいそうな

新地の六地藏塔と案内板

(後方は新地墓地)



ずれも六面に仏像が刻まれているか、刻まれた跡がある。

大隅には、笠木・別府・川久保(一六七三)・元八幡・川路山(一七〇三)・下須田木(一六六八)の六基がある。

曾於市内には一三基の六地藏塔がある(残っている)。財部の二基以外はすべて仏像が刻まれていたようである。

建立の年代については、わかつている塔で、古いのが川内の一五五〇年(四六〇年前)で、一七〇〇年代に建立されたのが川路山と柵木で約三〇〇年前に造られたものである。

設置場所は多くが墓の入り口であり、供養塔として建立されたことがわかる。

筆者の家近くの新地六地藏塔は私が子供(七〇年前)の時から、県道から墓へ行く入り口の左側に今と同じ状態で建てられていた。龕部の仏像跡を見ると

仏像であったことがよくわかる。どの面も同じように仏像が消える寸前であることから、明治初年の廃仏毀釈で意図的に破壊されたことが考えられる。塔

は上の宝珠・笠石と蓮華がなくなっている。ここには、方々に埋められていたのを排斥が終わった後、見つかった三つで再

建したと考えられる。

明治初年、薩摩藩は神仏分離令による仏教の取り締まりがきつく、寺、僧侶、仏像等のほとんどがなくなるか壊されるかした。

私は今回の執筆で「六地藏」「ちんぼちんぼ炊つ」「五輪塔」を考えたが、毎日のように見て拝み自分の祖先の墓と同じように花や水を換えていることから、かわいそうな新地の六地藏塔を中心に書くことにした。

六地藏塔・仁王像・五輪塔等の文化財を活用しながら、大事に保存活動したいものである。

曾於市文化財保護審議会会長

高木 秀久



(りつばな光神庚申六地藏塔)